



～北の方が子を産んだのは朝日町!?!～

# 朝日町の義経伝説を訪ねる



朝日町には二つの源義経に関わる伝説が残っています。一つは義経の正妻北の方（郷御前）が出産したという「子なし沢」。もう一つは大行院に宿代の代わりに置いていったという弁慶の「笈」です。もしかしたら一行は、北の方の産後の回復を待つためにしばらく大行院に滞在していたのかもしれませんが。また、他市町の伝説も加味すれば内陸ルート説もありえるように思えます。子なし沢の現場を検証し、大沼では宮司の最上俊一郎さんを講師にお話をうかがい、義経らも参拝したであろう浮嶋稲荷神社やお島様（浮島）を訪ね、最後に大行院にて弁慶の笈を拝見します。

**日 時** 7月5日（日）午前9時半～

**集合場所** 朝日町エコミュージアムコアセンター「創遊館」エコルーム前

**参加料金** 500円 **定員** 20人

**講師** 最上俊一郎氏（浮嶋稲荷神社宮司）

**道先案内** 安藤竜二（朝日町エコミュージアム案内人）

**申し込み** エコルーム 電話 0237-67-2128

●当日は各自の車で移動します。

なるべく乗り合わせていただけましたら幸いです。

●裏面に内陸ルートに関わる他市町の伝説を載せてあります。

**主催** 朝日町エコミュージアム案内人の会



考えられる内陸ルート

## 内陸ルートに伝わる義経伝説 (ネットより抜粋)

### 正應山 常信庵 / 米沢市

入口に「源九郎判官義経公接待遺跡」の標柱が立っている。源義経が奥州藤原氏を頼りに逃亡する途中、この寺院に立ち寄ったとする。一行が鼠ヶ関(庄内)を避けて内陸に入り、羽前米沢に立ち寄り、自分の楯となって討死した忠臣、佐藤継信・忠信ゆかりのこの寺に立ち寄り、母の梅唇尼に兄弟を死なせてしまったことを詫びたという。そして「きゃらぼく」の木を植えて菩提を弔ったとされる。梅唇尼の名が記されたミイラも発見され万年塔を建て供養している。境内には、正信、継信、忠信親子を祀った三尊社がある。

### 塔様 / 長井市成田

文治2年(1186年)の秋、羽黒詣りの七人の山伏が民家に宿を願い泊めて貰った。ところが、この一行の中の娘が急に病気になり、仕方なく娘をしばらく宿に泊めて貰うように頼んだところ、その家の人達は心良く引き受けてくれた。それから3年後、義経が主従ともども討死したことがこの地方まで伝わった。これを聞いたかの娘は家の主人に「あの山伏一行は義経主従であって、その中で背の高いヒゲをはやした人が武蔵坊弁慶という者で、私は弁慶の娘」と打ち明けた。その証拠として、日の丸の軍扇を出し、これは弁慶が義経の家来になった時に貰ったもので、父がここを出発するとき形見に渡されたものであると話した。これを聞いたその家の人々は大いに驚き、今まで以上に娘を大切にした。後に娘は、この家の息子の嫁となって子孫大いに栄えたといわれる。その家は現在の鈴木平左衛門家の先祖。この娘夫婦が、亡くなった父弁慶の霊を弔うために供養塔を建て、大法要を行ったといわれている。

### 子なし沢と弁慶の笈 / 朝日町八ツ沼・大沼

義経は弁慶らを連れて奥州平泉に逃れる途中、朝日町を通ったという。ところが北の方が産気づいて弁慶大いに困った。ふと見ると道の傍に松の大木があり、その下にはきれいな水が流れていた。北の方はここで子を産んだ。その先の大沼には弁慶が修験道を伝えてきて大行院に泊まり、宿代の代わりに笈を置いていった伝説がある。扉の裏に凡字で、武蔵坊弁慶の「武蔵」と書いてある。

### 三ツ川一橋 / 河北町北谷地

昔、法師川は三筋に分かれて流れていた。義経がここにさしかかった時、弁慶が大石を担ぎ三本に流れているところに落として橋を架けた。「三ツ川一橋」と呼ばれる由縁。その時担いだ石に弁慶の手の跡が残ったと言われており、「耕地整理記念碑」の台座になっているのがその石だと語りつがれている。

### 源義経伝説 / 舟形町

「義経記」では会津の津(本合海)から亀割山を越え平泉に向かったとされますが、舟形町ではそれとは異なる伝承が伝わっている。

- ・猿羽根村近くで宿泊し、北の方が産着を絹で縫った、義経一行の破れた着物を縫った伝承から絹縫という地名の由来となった。
- ・義経一行が川岸で穴(窪)を掘りそこに水を溜め汚れた手足を洗った。
- ・義経一行が獅子口で休憩した。
- ・獅子口の対岸にある熊野神社で、出羽三山に代参した弁慶と合流した。
- ・実栗屋から毒沢へ笈を利用して渡ったので「笈渡」という地名の由来となりそれが転じて「折渡」となった。
- ・上記の笈を乾かした松は「笈掛の松」と呼ばれた。
- ・一関集落には関所がある義経一行を厳しく詮議した。
- ・義経一行は伊藤半平衡から粟3升借り、明治時代までその証文が残っていた。
- ・義経一行は舟形から大平、稲先(ウサギシッタイ)、市野々、休場、亀割山へと向かっていった。
- ・舟形から北に進路をとり夜道を進み明け方となり一番鶏が鳴いたので鳥越(新庄市)と呼ぶようになった。